

平成30年度 地域貢献事業活動報告書

1 事業名称	地域資源を授業にいかすためのワークショップ 2018 ～みんなで考える幸せに生きるための住生活カリキュラム～
2 事業推進者等	(責任者職名・氏名) 自然・生活教育学系准教授 佐藤ゆかり
3 学外の連携機関等	(連携機関等名)(担当者職名・氏名等) (1) 兵庫県立大学大学院 減災復興政策研究科 准教授 澤田雅浩氏 (2) 社団法人 雁木のまち再生 理事長, せきゆうこ設計事務所代表, 越後あわゆき組代表 関由有子氏
4 事業の趣旨・目的	<p>現行学習指導要領が動き始めた 2011 年に第 1 回(地域素材を授業にいかすためのワークショップ～2011 年は町家で町家の教材づくり～)を開催した本事業も今回で第 8 回を迎えた。現行学習指導要領では、地域素材、伝統文化等のキーワードが特徴的なものとして示され、各学校段階のさらなる連携が求められた。そこで、本事業を通して地域素材を授業に利用するための視点及び手法を理解し、明日の授業から活用できる教材を作成すること、加えて、小・中・高・大学(学生を含む)の参加者がワークショップにより交流し、各学校段階の連携の契機となることを願い、これまで回数と成果を重ねてきた。</p> <p>現行学習指導要領の趣旨を発展させた側面を持ち合わせた新学習指導要領が示されたこの機会に、今までの成果を踏まえつつ、新学習指導要領で求められる視点を加味したワークショップを実施したいというのが本事業開催の意図であった。</p>
5 事業活動報告	<p>配分予算額が申請予算額を下回ったため、申請書に示した計画を変更し行った。活動状況は以下の通りである。</p> <p>事業 1 : みんなで考える幸せに生きるための住生活カリキュラム 日時 : 2018 年 6 月 25 日(月) 18 : 00～19 : 30 場所 : 上越教育大学人文棟 113 教室</p> <p>兵庫県立大学大学院復興政策研究科准教授澤田雅浩氏の特別講義「〈みんなでつくる防災教育体制〉をコーディネートして」のあと、参加者で住生活カリキュラムにおける防災・減災教育についての意見交流を行った。澤田氏の特別講義は、7.13 水害、中越大震災からまもなく 10 年が経過するという時期に、市民協働による「ひとづくり」「ものづくり」「まちづくり」を目指す長岡市が実施した「みんなでつくる防災教育体制」の展開に関するものであった。この長岡市の事例は新潟県教育庁が「新潟県防災教育プログラム」を作成という状況において、そのことも踏まえたものであり、学校と行政と市民と大学のつながりの中で展開されたものであった。</p> <p>なお、当初企画した事業 2 : みんなで考える幸せに生きるための住生活カリキュラム : 「〈雁木と町家〉の街を歩いて考えるヒトとモノとコトのつながり」は予算の都合からこの事業として展開することはできなかったが、年度内の別の機会に、本学学生を対象として 2018 年 9 月 23 日(日)に高田小町・旧今井染物屋等を含むまち歩きを実施し、その後、皆で、住生活カリキュラムについて考えた。</p>

<p>6 本事業で得られた成果</p>	<p>本事業で得られた成果等は以下の通りと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家庭科における住生活カリキュラムを構想する上での，基本的事項について知ることができた。 ・産・官・民の連携による教育体制の構築事例を知ることができた。 ・雁木や町家，それらをもとにしたまちづくり等について知ることができた。 <p>これらのことは，新学習指導要領の核となるカリキュラムマネジメントの確立に極めて重要かつ必要とされる教科等横断的な学習の充実に資するものと考えた。</p>
<p>7 その他 <small>(成果物等の名称)</small></p>	<p>みんなで考える幸せに生きるための住生活カリキュラム：「〈雁木と町家〉の街を歩いて考えるヒトとモノとコトのつながり」は，この事業で実施することができなかったが，現場家庭科教師を中心に再度，事業実施を求める声があり 2019 年度における実施にむけ，別予算にて計画中である。</p>